

令和 2 年 3 月 12 日  
農林総合研究センター  
043-291-9985

## 農林総合研究センター新本館の供用開始について

千葉県農林総合研究センターでは、本県農林業の発展に資するため、消費者ニーズに適した新品種の育成、生産性を高める栽培方式や環境にやさしい農業技術の開発などに取り組んでいます。

このたび、千葉市緑区大金沢町において建設を進めていた新施設が竣工し、機器等の移設も概ね終了したことから、3月3日から新施設で業務を開始しました。

### 1 新施設の概要

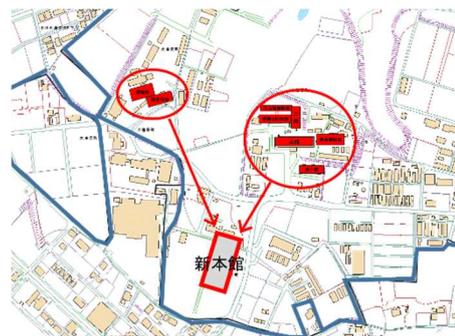
鉄筋コンクリート造 地上2階建て（外装に県産木材を使用）

延床面積 5,732㎡（所在地：千葉市緑区大金沢町180番地1）

※分散している施設の機能を集約



完成した新施設の外観



施設の集約の状況

### 2 施設の特徴

- （1）普及指導員や先進農家等と研究員が共同で病害虫診断や農産物の品質調査などに取り組める実験スペース（オープンラボ）を設置
- （2）分野横断的な研究や機器の共同利用が可能な実験室
- （3）研究成果発表会や一般向け公開講座の開催にも対応できる大会議室を設置



2階に設置したオープンラボ

### 3 取材の申込み

取材を希望される方は、事前にお申し込みください。

県農林総合研究センター 研究マネジメント室 電話（043）291-9985

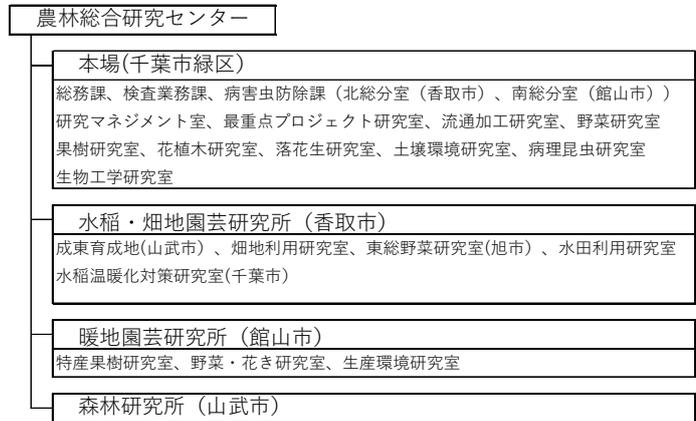
# 千葉県農林総合研究センターの概要

千葉県農林総合研究センターでは、本県農林業の振興に寄与するため、農林業に関する試験研究及び調査、優良品種の育成、原原種の維持及び原種の生産と配付、肥料及び飼料の品質保全に関する業務、病虫害発生予察及び農薬の安全使用に関する業務を実施しています。

## 1 組織図

本場と各産地に設置された

3 研究所で構成されています。



## 2 農林総合研究センターの主な業務

### (1) 新品種の育成

安定して生産でき、よりおいしい品種の開発と普及に取り組んでいます。

現在、米の「ふさこがね」、イチゴの「チーバベリー」、落花生の「Q なっつ」など、30品種が千葉県育成品種として品種登録されています。これからも、米の「粒すけ」、梨の「千葉K3号」、切り花のカラー「千葉C2号」が次々とデビューします。

### (2) 技術の開発

スマート農業をはじめとした農林業の生産力強化やブランド化を推進するための技術開発、環境への調和や資源の維持増大に関する技術開発、気候変動や新しい病虫害の発生など環境変化に対応できる技術の開発などの研究に取り組んでいます。

#### 【最近の特徴ある研究成果】

- ・手軽に花を楽しむための燃やせる土の開発
- ・土耕・培地耕交互栽培によるキュウリの安定多収技術
- ・ナシ園に棲む天敵昆虫を最大限に生かしたナシ害虫の防除法の開発

### (3) 検査、指導など

農業に欠かせない肥料や飼料などの生産・販売業者への立ち入り検査や依頼に基づく分析を行っています。また、農薬の使用に関する指導や取り締まりを行っています。さらに、農作物の病虫害の発生状況を定期的に調査・分析して発生を予測し、効果的に防除を行えるよう情報を発信しています。